

今田地域部会



〔部会メンバー〕 蘆田富基子・市野 秀之・大上 磯松・熊谷 勉・小林 武司・竹中富士子
竹山小百合・橋元 勇・波多野省三・藤本 清仁・前中 勝・吉村 隆志

はじめに

今田地域は篠山市の南西部に位置し、播磨・摂津に接して四方は山に囲まれ、地域面積51.99km²のうち約83%が山林である。その中央部に和田寺山がそびえ、東部に加古川水系四斗谷川、西部に同水系東条川が流れ、それぞれに沿って集落が開けている。四季の変化が感じられる自然林の豊かな環境を保ち、全体として自然環境に恵まれた農山村のたたずまいをみせている。近年は、道路整備の進展を受けて、沿道部への飲食、サービス施設等の立地もおこり始めており、徐々にではあるが土地利用にも変化が現れ始めている。本地域の産業は農業を基本としており、この中でも米作がその大半を占めているが、近年は丹波ブランドで流通する黒大豆、山の芋等で大都市圏をターゲットとした特産品の生産が伸びている。また地域には地場産業として日本六古窯の一つに数えられる丹波立杭焼があり、窯元数も増加傾向にあり、一定の伸びがある。このような中で、豊かな自然と人間性を守りながら、秩序ある発展をめざしてふるさと今田の未来を検討、提言することとした。

部会の開催

とき	会議	ところ	概要
11.12.2	第1回地域部会	今田支所	地域部会の概要について・正副部会長の選出・今後の運営方法について・地域の課題について・調査研究テーマについて
11.12.8	役員会	今田支所	今後の日程調整・地域課題の集約（方策）について
12.1.13	役員会	今田支所	運営方法、課題の集約について
12.1.14	第2回地域部会	今田支所	地域の課題とその集約について
12.2.15	第3回地域部会	今田支所	地域課題のまとめ
12.3.1	第4回地域部会	今田支所	地域課題のまとめ
12.3.22	第5回地域部会	今田支所	地域課題のまとめ
12.6.27	第6回地域部会	今田支所	市100人委員会報告について・テーマ部会参加について
12.9.26	役員会	今田支所	地元市議に対する要請について・テーマ部会の報告会について・(仮称)今田振興会について
12.10.3	第7回地域部会	今田支所	テーマ部会の報告・地元市議に対する報告について・(仮称)今田振興会について
12.11.13	第8回地域部会	今田支所	地元市議に対して今田地域部会の報告(仮称)今田振興会について
12.12.4	役員会	今田支所	当面の取り組みについて
13.1.30	第9回地域部会	今田支所	テーマ部会の報告・今田地域部会最終報告書について
13.3.7	役員会	今田支所	最終報告書提出及び編集委員選出について
13.3.28	第10回地域部会	今田支所	最終報告書フォーマット統一について 第2期生募集について

テ - マ

提 言

教育文化の充実

青少年の健全育成

未来を背負ってくれる青少年の健全育成が何より大切であり、命、人権を尊び、正しく物事を判断できる力を身につけなければ不安な社会に傾いていく。明るい社会にしていくには、地域と子供との関わりを高める必要がある。

学校教育の充実

国際的な交流の時代を迎えるので、今後ますます英語の力を身につける必要がある。そのために小学生の時から日常生活の中で英語を学べるようにしなければならない。

芸術、文化の振興

篠山市には優れた伝統文化が多く息づいているので、学校教育で歴史と文化にふれながら郷土愛を育み、人間性を高めたい。

文化継承関係者や地域・教育委員会・行政などの連携を深めることが肝要である。特に「陶の郷」側での「(仮称)県立陶芸館」は、丹波立杭焼の文化と芸術が更に高まるものである。

アクション
プログラム

行政の行うべきこと

- ・外国人教師の招致
- ・「(仮称)県立陶芸館」の早期完成推進に向けての取り組み

住民の行うべきこと

- ・学校と保護者だけでなく、それぞれの地域が子供の心を育てる活動を推進できるように積極的な取り組み

テ - マ

提 言

産業の振興

「こんだ薬師温泉」の早期実現

篠山市(1999年)の10大ニュースの上位となった「こんだ薬師温泉」の利活用に大きな期待を寄せている。観光の目玉として地域産業振興の核として「市民温泉」早期実現を要望する。利用方法については、地域福祉や温泉プールとしての健康増進への利用などが考えられる。

利用計画については、篠山市温泉活用研究会が平成11年12月に、市長に建議した利活用計画書を基に早期実現を希望する。

観光開発の再構築(グリーンツーリズムへの取り組み)

丹波立杭焼が今田地域の観光主軸であり篠山市としても観光の大きな目玉である。しかし、立杭焼だけでなく、市内を周回して1日を市内観光できる様な相乗効果を高めたい。新たな観光スポットの開発、駐車場の整備、PR等を積極的に行う必要がある。

篠山市の観光開発の再構築に向けて、グリーンツーリズム推進のための取り組みが必要である。

また、平成10年4月に今田町観光開発研究会が建議した、「今田自然の里構想」の研究報告書の具体化へ向けて積極的な推進を希望する。

アクション
プログラム

手づくり工芸村の実現

今田地域は丹波立杭焼の里でもあり大変環境に恵まれ、すでに多くの芸術家たちが移住して活躍している。積極的な受け入れ体制を作ること、多くの芸術家を集めた、ユニークな地域づくりが出来ると考える。

手づくり工芸村の実現に期待する。

特産品の開発と販売拠点の整備

10年前にはあまり知られなかった「黒豆の枝豆」が特産品として定着した。また、黒豆を使った数々の新商品も人気を博している。これからも、地域性を生かした特産品の開発が肝要である。

また、今田地域で進められている中山間地域総合整備事業（ヘルシクハーモニー丹波地区）の農業公園では、広範な視野で取組み、農産物の加工センターや販売拠点、都市との交流、地域農業の活性化や、人々が憩える場所、動物と自然、温泉保養施設などを意識した拠点づくりの整備が急がれる。

地域農業の再生

農業の再生が急務と考える。今田地域は、集落営農組合等の組織率が他の地域に比べて非常に悪い。ほ場整備事業が遅れたことも大きな要因と考えられる。1つの集落が1つの農場との考えで、効率的な農業経営を推進することも地域農業の再生に繋がると考えられる。

また、貸し農園や景観作物などを採り入れた休耕地の活用も考えなければならない。

和田寺山開発構想の促進

旧今田町時代にその構想を発表した和田寺山開発構想の具体的な取組みの一環として、こんだ薬師温泉を活用した農業公園に期待する。和田寺山開発基金の有効活用には地域住民参加による研究会の発足を提言する。

行政の行うべきこと

- ・「市民温泉」早期実現
- ・新たな観光スポットの開発、駐車場の整備、PR等
- ・貸し農園や景観作物などを採り入れた休耕地の活用への働きかけ
- ・こんだ薬師温泉を活用した農業公園の整備

住民の行うべきこと

- ・手づくり工芸村構想の研究会発足、具現化
- ・グリーンツーリズム推進のための市民参加の研究会等への取組み

テ - マ

提 言

健康・福祉の充実

保健・医療の充実

健康で安心できる生活を実現することは、住民すべての願いである。医療機関、福祉機能との有機的なネットワークを作り、早期発見、早期治療を柱とする地域医療の充実が肝要である。

交通弱者への対策

車社会の日常生活であるが、車以外の交通機関が無いに等しい地域であり、特に高齢者等は外出しにくい状況下にある。

これらを解消すべく福祉バス、乗合小型車の運行や高齢者等の外出をしやすくする介助的な車、介助ボランティアの育成が急務である。

対象者別福祉の充実

高齢者が生きがいを持ち、住みなれた地域でいきいきと生活できることをめざし、在宅施設における介護サービスの充実を図るため地域ぐるみで高齢者の福祉を確立する。そのためには地域リーダーやボランティアグループを育成するなど人材の育成が大事である。

障害者福祉プランの推進

すべての人が幸せな生活を求めていくことは誰もの願いである。障害のある人が社会の一員として自立し、ともに暮らすことができる社会の実現をめざし、手話通訳、要約筆記ボランティアの養成をはかるなど、障害のある人もない人も共に生きる社会をつくることが最重要課題である。

また、旧4町時代の障害者プランの具体化に向けて取り組まれない。

アクション
プログラム

行政の行うべきこと

- ・ 地域医療の充実
- ・ 福祉バス、乗合小型車の運行や福祉車両の普及、介助ボランティアの育成
- ・ 地域リーダーやボランティアグループを育成するなど人材の育成
- ・ 手話通訳、要約筆記ボランティアの養成
- ・ 旧4町時代の障害者プランの具体化

住民の行うべきこと

- ・ 地域ぐるみでの高齢者福祉の確立
- ・ ボランティア活動への参加

テ - マ

提 言

生活環境の整備

河川の整備

世紀の大事業である下水道事業が展開され環境が良くなると共に、一方で河川改修なども進むが、河川に柳などを植えて蛭や魚が住める川にし、昔のような河川を取り戻したい。

そして木津地区の「ふれあい川づくり事業」で、加古川の源流である東条川にふさわしい取り組みを願いたい。これに伴って県立丹波林間学校も再生すると考える。

ビオトープの推進

子供達が昔のように自然に親しみ、自然と友達になって幼い頃の良い思い出をつくり、情操教育となることにも願いを持つ。しかし、近年の急速な開発等に伴う身近な自然環境の減少などにより、この周辺に生息している野生生物の生息空間（ビオトープ）が失われつつある。今後、地域での活動を推進することが大切である。

情報・通信の整備

広報、公聴の充実が大切である。住民にリアルタイムに情報を提供し、市内の歴史や土地柄の紹介など肌理の細かな情報提供に努める。

また、全国へ篠山市の情報の発信をするインフォメーション機能が求められる。将来はCATVやインターネットなど双方向機能をもった情報インフラの整備も急がれる。

アクション
プログラム

行政の行うべきこと

- ・木津地区の「ふれあい川づくり事業」で、加古川の源流である東条川にふさわしい取り組み
- ・CATVやインターネットなど双方向機能をもった情報インフラの整備

住民の行うべきこと

- ・生息空間確保のための地域での活動

都市基盤の整備

国道372号の整備促進

阪神淡路大震災後の車輦増で危険度が高まっている国道372号、特に不来坂峠はカーブが連続しているうえ狭く、通学や通勤に対し家族中が心配するところである。

この危険に対する不安と峠を越える意識を無くしていく道路改良が積年の願いであり、今田地域に大きな変革をもたらす。よって、国・県道整備促進協議会の運動を盛り上げ、篠山市中心部へのこのルートの整備を急いでいただきたい。

歩道の整備

県道下立杭柏原線は、通勤・通学及び生活の道路であるが、立杭地区への観光車輦が増える中、狭くてカーブ地点も多く、歩道が未設置であり、大変危険な日常で、改良への要望が高い。

特に自転車通学の小中児童生徒への安全確保のため、早期の改良に力を入れていただきたい。

県・市道の整備

今田地域内で県・市道の整備の不十分なところがある。また、行き止まりの道路も多いため改良、新設を要望する。

特に、市道は市民の生活道路であり、防災面からも、早急な整備が望まれる。

また、住民参加の地域づくりが叫ばれているときでもあり、市道の現状を市民と共に調査し、住民参加のもとでの整備計画を作り上げていくことを提案する。

複合型「道の駅」施設の整備

国道372号を利用するドライバーにとって、四季の変化で心を洗う自然林のオアシスでの休憩の場、この地域を訪れる人に街の文化や歴史、名産などの魅力を情報発信する場、住民に日常生活用品やサービスを提供する場、など複合的な機能を持ち、風景形成地域にふさわしいランドマークとなるような「道の駅」施設の整備について検討を願う。駐車施設や物販、展示、体験施設などを整備するとともに、豊かな湯量の「温泉」を視野に入れ、検討中の諸施設との併設、連携の可能性にも配慮願いたい。また、三田のニュータウンにも近い今田地域であれば採算や地域におよぼすインパクトも強い。

行政の行うべきこと

- ・歩道の整備
- ・市道の新設、改良
- ・「道の駅」施設の整備についての検討

住民の行うべきこと

- ・国・県道整備促進協議会の運動の盛り上げ
- ・住民参加の地域づくりとして、市道の現状を市と共に調査し、住民参加のもとでの整備計画策定

テ - マ

提 言

アクション
プログラム

連携・交流の促進

新生篠山市民としての連帯・交流の促進

市民同士の、また各種団体の協力や連携をとる為の組織づくりを考える必要がある。
また、多くの市民が参加するボランティア団体や、NPO団体の育成を忘れてはならない。

(財)篠山未来協会(仮称)の設立

篠山市の地域の発展や経済効果などを長期的な視野に立って企画・運営出来るような外郭の専門団体を組織し、産官民協働のまちづくりを進める。

行政の行うべきこと

・多くの市民が参加するボランティア団体や、NPO団体の育成

住民の行うべきこと

・市民同士の、また各種団体の協力や連携
・産官民協働のまちづくり